

	音楽研究会 部会記録				
日時	令和3年 9月 8日(水) 15:30~16:45				
部会名	研修部 管楽器部会			主任	田中 亜由美
参加数	7名	司会	川端 大介	記録	田中 亜由美
研修 内 容	研修会：「ドリル指導の実際」(zoom 開催) 講師：横浜市立原小学校校長 蒲谷 猛 先生				
	横浜市の小学校におけるマーチングバンド活動は、昨年から引き続き、感染症拡大防止の観点から活動の制限・縮小を余儀なくされ、思うようにいかないことも多い。今回は、今だからこそこれまでの指導や活動を振り返り、今後やっていきたいことなどについて参加者の先生方で意見を交流したり、講師の方にアドバイスをいただいたりした。 <研修> 講師の蒲谷校長先生より「発想を変えて」という内容で、PowerPoint を画面共有しながらお話をいただいた。まず、ドリル指導と児童指導は同じであるという基本のスタンスをもち、指導するとよいということをつかかった。例えば「廊下を走らない」ではなく「廊下は歩く」「廊下の歩き方を教える」を指導の基本スタンスとすることで、子どもの行動一つひとつに注意や指導しなければいけない状況から成長が期待できるようになる。同様に、ドリル指導にかんしても「動く」ことよりも「止まる」ことを指導することで、演技のメリハリがより期待できるようになる。併せて、「止まる」ことに対する指導方法について具体的な例を示していただいた。 また、オンビートで「拍をそろえる」だけでなく、裏拍での楽器操作や動きについて指導することを基本スタンスにすると緊張感をもち、スマートな動きになるということ、「曲+ドリル」の前に「動き+音」を指導し、音を出しながら動くということをスタンダードにするとスムーズにドリル演奏の指導ができるというお話をうかがった。特に子どもにとって、楽器を演奏しながら動くということは決して自然なことではない。反復練習に粘り強く取り組むことで、動きが自然となり、高度なドリル演奏に取り組む基礎ができあがることとなるので、かえって効率もよいということをつかかった。 蒲谷先生の豊富な実践と的確でわかりやすい語り口、詳細に作ってくださった資料により、充実した研修となった。				
	<意見交流> ○特にコロナ禍において、経験者と初心者の技能の差が大きい。練習の兼ね合いはどうするか。 →教師の求めているレベルを体現してくれるのが経験者の児童。初心者もだが、彼らを育てることも大事。学級と同じで、よくできる子、理解が追いつかない子……それぞれへの意図的指導をおこなう。				
	○練習時間が足りない。 →よくばりすぎず、一つの練習に一つの山場、一つのおみやげ(成果)と割り切ることも必要。授業と同じ。一度の練習の成果をあげるほうが、結果的にできばえが変わってくる。 →子ども同士で教え合えるよう種まきをしておくことも大切。				
	○集中すると距離が近くなってしまうことも……。他校はどのように練習しているのか？ →緊急事態宣言発令以前は、フェイスシールドをつけたり、マスクストラップを使用しマスクの着脱を素早く行えるようにしたりして活動していた。				

